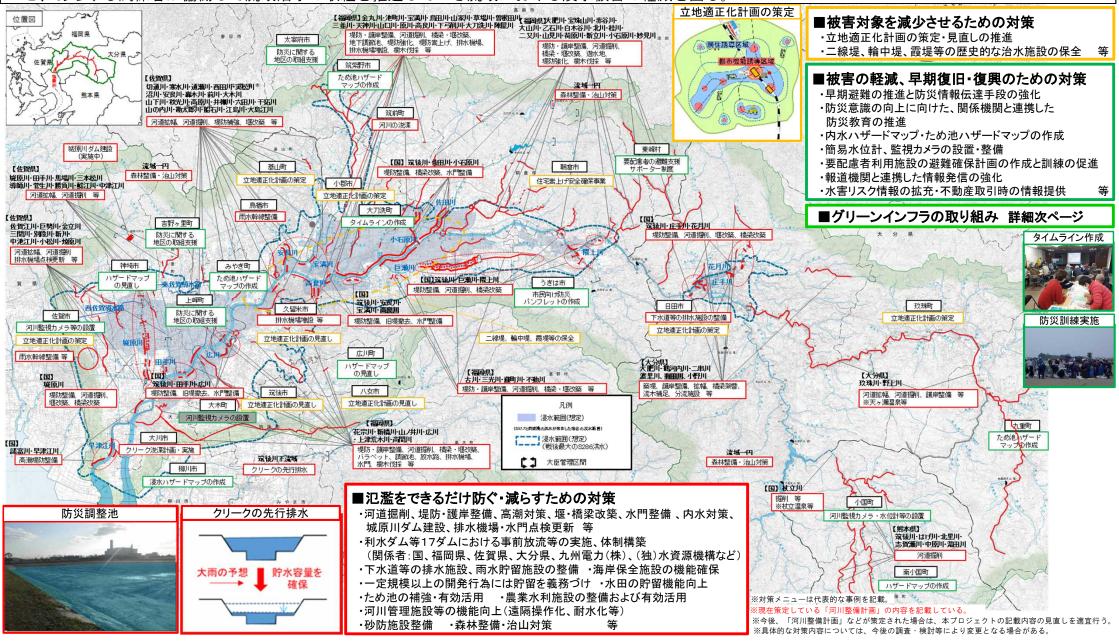
筑後川水系流域治水プロジェクト【位置図】

~日本三大暴れ川の筑後川における抜本的な治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策~

○令和元年東日本台風では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、筑後川水系においても事前防災対策を進める。筑後川水系は広大な低平地である筑紫平野を有し、河川沿いには人口や資産が集中している。洪水が起こると大きな被害が発生するという流域の特性を踏まえて、河道掘削や堤防·護岸整備などを実施していくことで、流域内戦後最大の昭和28年6月洪水と同規模の洪水に対して本川の堤防からの越水を回避するなど、あらゆる関係者が協働して流域治水の取組を推進していき流域における浸水被害の軽減を図る。



筑後川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

~日本三大暴れ川の筑後川における抜本的な治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策~

○筑後川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町村が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】 安全度の低い箇所の整備を優先的に実施。大雨が予想される場合に、ため池や水路の先行排水を行うことで流出抑制に取り組んでいく。 利水ダム等による事前放流体制の構築を完了させる。

【中 期】 上下流・本支川バランスを考慮しながら、治水対策を進めるとともに、流域内の土砂災害防備、森林整備及び治山対策等を進める。

雨水幹線や貯留施設の整備を行うことで内水被害軽減に取り組む。

【中長期】 流域内の氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策を進め、流域内の安全度向上、継続的な施設保全を図る。 防災教育の実施や自主防災組織の活動支援を継続的に行っていく。

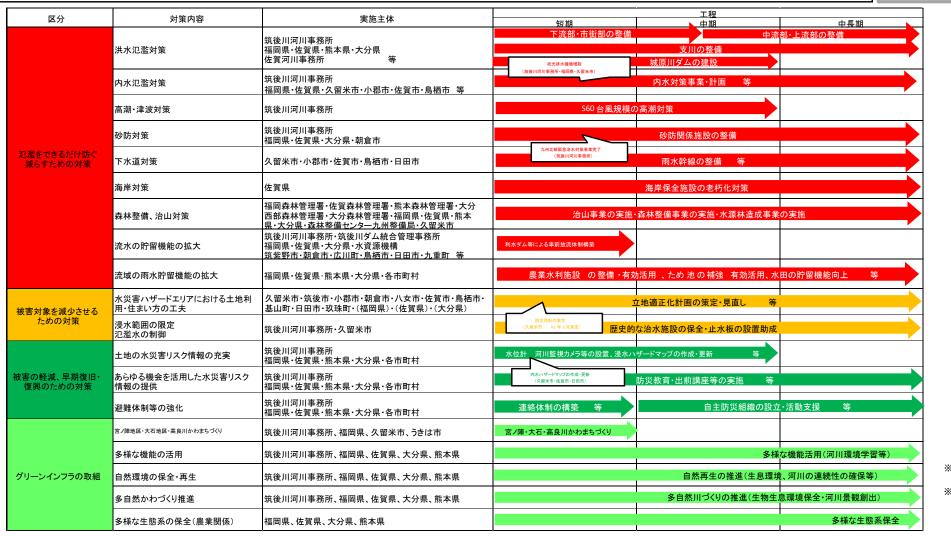
土地利用・住まい方の工夫について検討を行い、流域における防災・減災対策を推進する。

■河川対策 (約3448億円)

■砂防対策 (約201億円)

■下水道対策(約142億円)

■海岸対策 (約15億円)





※対策メニューは代表的な事例を記載。

※スケジュールは今後の事業進捗に よって変更となる場合がある。



筑後川水系流域治水プロジェクト【グリーンインフラ】

~日本三大暴れ川の筑後川における抜本的な治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策~

グリーンインフラの取組『九州一の大河が育む水辺環境と調和した、魅力ある水辺の賑わい創出』

- ○筑後川は佐賀・福岡・大分・熊本の4県にまたがり、上流域は水郷日田として、昔から川との関わりが深く、狭谷部・分流部と川の変化に富んだ環境です。中流域は平 野を緩やかに蛇行しながら流れ、瀬・淵、ワンドなどが多様な環境で、市街部の高水敷は公園整備等により、地域の人々に憩いの場として親しまれています。下流域は、 有明海特有の日本一大きな干満差により、ヨシや水鳥、魚類など多様な動植物が生息する豊かな自然環境が広がっています。
- ○筑後川流域は、生物の生息環境が豊である他、河川沿川には、温泉などの観光資源などもあり河川空間は流域の人々の憩い、賑わいの場でもあります。今後短期的な取組として進める「宮ノ陣地区かわまちづくり」「大石地区かわまちづくり」「高良川かわまちづくり」では、概ね10年間で賑わいのある水辺を創出するなど、<u>自然環</u>境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組みを推進します。

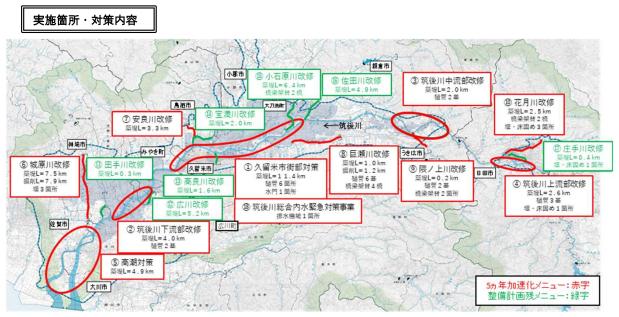


筑後川水系流域治水プロジェクト【事業効果(国直轄区間)の見える化】

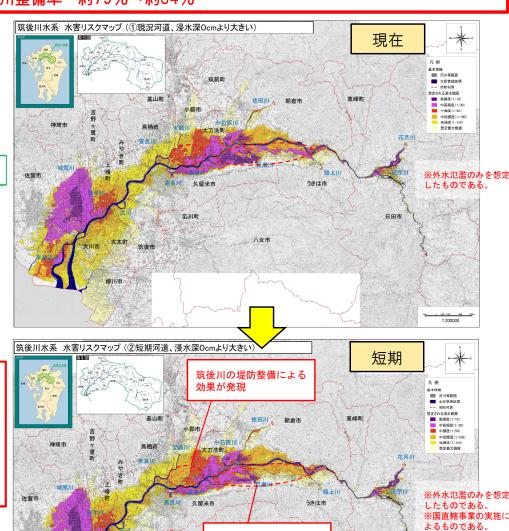
~日本三大暴れ川の筑後川における抜本的な治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策~

○筑後川総合内水緊急対策事業が完了することで、久留米市街部の内水被害を減少させることが可能。

短期整備(5ヵ年加速化対策効果):河川整備率 約79%→約84%







巨瀬川、隈ノ上川の整備

による効果が発現

注:外水氾濫のみを想定したものであり、

内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の

拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。

Ama

筑後川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

~日本三大暴れ川の筑後川における抜本的な治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策~

戦後最大洪水等に対応した 河川の整備(見込)



整備率:84% (概ね5か年後)

農地・農業用施設の活用



23市町村 (令和4年度末時点) 流出抑制対策の実施



2施設 (令和3年度実施分) 山地の保水機能向上および 土砂・流木災害対策



(令和4年度完成分)



避難のための



]団体 (令和4年9月末時点

高齢者等避難の 実効性の確保



_{避難確保} 洪水1805施設 計画 土砂 156施設

個別避難計画 26市町村

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

久留米大学雨水貯留施設

平成30年7月豪雨を受け、令和2年3月に国・県・市 で「下弓削川・江川総合内水対策計画」を策定。そ のハード対策のひとつとして、久留米大学周辺及 び下弓削川流域の浸水被害軽減を目的に、久留 米大学御井キャンパスの敷地内に貯留施設の整 備を行う。



◆貯留施設概要 最大貯留容量: 21.800m3(110m×154m×1.3m) ※25mプール(25m×13m×1.3m)約52杯分 グラウンド掘下式 約2m

<実施主体>久留米市

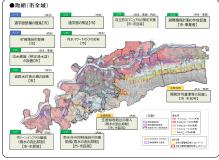
被害対象を減少させるための対策

立地適正化計画の策定・見直し

災害ハザードエリアにおける開発抑制、移転の促 進、防災施策との連携強化など、安全なまちづくり に必要な対策を計画的かつ着実に講じるため、令 和3年9月に防災指針を策定し、立地適正化計画を 改定。今後も新たに検討された取組等を必要に応 じて順次盛り込み改定する予定。



図:誘導区域の見直しイメージ



<実施主体>久留米市

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

災害ハザードマップの作成・更新

河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域とそ の水深及び土砂災害の危険箇所、市指定避難場 所などを示した「災害ハザードマップ」を作成、更新。 その他に、平成29年九州北部豪雨時の雨の降り 方と花月川・三隈川の水位の状況を基に、市内中 心部に大雨(1時間当たり100ミリ)が降った場合に 想定される「浸水の範囲と深さ」や「避難所」などを 示した「内水ハザードマップ」を公表。



災害ハザードマップ



内水ハザードマップ

く実施主体>日田市